

消化器・肝臓内科

■ スタッフ

科長		中川 勇人
副科長		岩佐 元雄
医師	常勤	18名
	併任	7名
	非常勤	16名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

1. 高度な医療、先進的な医療を展開しています。

- 1) 消化器疾患全領域を対象として、適確な診断や最適で患者様に優しい治療を実践しています。
- 2) 内視鏡では、最先端の内視鏡やカプセル内視鏡を導入し、さらに人工知能を用いた新たな診断技術の開発にも取り組んでいます。
- 3) 肝疾患では、肝細胞癌に対するアブレーション治療や免疫療法などを積極的に行っており、東海地区でも屈指の患者数です。さらに肝炎ウイルスに対する最新の直接作用型抗ウイルス療法や、肝硬変に対する栄養療法を基軸とした総合管理、肝移植前の検査なども行っています。また、「肝炎相談支援センター」を開設し、県内の肝疾患の診療ネットワークの中心的な役割を果たしています。
- 4) 脂肪肝に対しては、最新診断装置 MR エラストグラフィを導入し、体への負担が少ない肝脂肪化・線維化診断を行っています。
- 5) 胆膵疾患では、超音波内視鏡を用いた高度な診断・治療技術を駆使し、特に膵臓癌の早期発見や薬物療法に力を入れています。
- 6) 膵炎、劇症肝炎、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）などの難病に対しても、新しい治療法を実施しています。
- 7) 酢酸散布を併用した拡大内視鏡による癌の診断などの独自性のある医療を推進しています。
- 8) 三重県随一の臨床試験担当科として多くの治療を実施し、最新の治療薬へのアクセスを

提供しています。

2. 主な診療対象疾患

1) 肝疾患

急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、自己免疫性肝炎、原発性肝癌および食道静脈瘤の診療に取り組んでいます。また、新規薬剤等の臨床試験も積極的に進めています。

2) 消化管疾患

食道、胃、小腸、大腸などの消化管疾患の診療に取り組んでおり、早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、消化管出血に対する低侵襲カプセル内視鏡、クローン病・潰瘍性大腸炎に対する新規薬剤等の臨床試験も積極的に進めています。

3) 胆膵疾患

最新の医療機器を用い、胆嚢、胆道、膵臓などの疾患の診療に取り組んでおり、超音波内視鏡下での針生検（EUS-FNA）による組織診断、ドレナージほかステント治療などを多数施行しています。また、地域に根ざした診療をモットーに膵臓の早期診断プロジェクトを津地区医師会、久居・一志地区医師会と連携して進めています。

■ 診療体制と実績

スタッフの取得専門医

科長の中川勇人は日本内科学会評議員、日本消化器病学会評議員、日本肝臓学会評議員を兼務。

また日本内科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本消化器内視鏡学会の専門医・指導医、がん治療認定医を多数擁しています。

高度先進・特殊医療

- 肝細胞癌に対するマイクロ波凝固療法
- 酢酸散布やNarrow Band Imaging (NBI) を併用した拡大内視鏡によるポリープや癌の診断
- 食道・十二指腸・大腸早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

特徴的な検査・医療設備

- MR エラストグラフィ
- 間接熱量計・体組成計・持続血糖測定システム

- 高性能電子内視鏡
- AIによる内視鏡画像診断支援システム
- 超音波内視鏡・超音波細径プローブ
- 内視鏡レーザー照射装置
- 小腸内視鏡・カプセル内視鏡
- 胆管内内視鏡

■ 診療内容の特色と治療実績

主な診断と治療

- 肝臓に対するアブレーション治療（ラジオ波焼灼療法（RFA）、マイクロ波凝固療法）
 - ◆ 2022年度 肝臓に対するエコーガイド下アブレーション治療 80例
- C型慢性肝炎、肝硬変（非代償期を含む）に対する最新の直接作用型抗ウイルス剤治療
- 非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）の病態診断と治療
- 肝硬変患者に対する栄養療法、腹水濾過濃縮再静注法など
- 肝臓の集学的治療（肝動脈内持続抗癌剤注入療法、分子標的薬治療、免疫療法など）
- 「肝炎相談支援センター」による患者相談、医療従事者に対する講習会の開催
- 食道・胃・大腸早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）
 - ◆ 2022年度 食道・胃早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）施行件数 100件
 - ◆ 2022年度 大腸早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）施行件数 23件
 - ◆ 2022年度 大腸内視鏡的粘膜切除術（EMR）施行件数 277件
- 十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療
- 小腸内視鏡、カプセル内視鏡による小腸病変の診断
 - ◆ 2022年度 小腸内視鏡施行件数 177件
- 難治性のクローン病・潰瘍性大腸炎に対する生物学的製剤治療や白血球除去療法
- 胆、膵疾患に対する内視鏡的胆管膵管造影（ERCP）、胆管・膵管内エコー（IDUS）を用いた診断
- 胃切除後再建腸管に対する小腸内視鏡を使用した内視鏡的胆管膵管疾患の診断と治療
- 内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）と内視鏡

的胆管ドレナージ（EBD）

- 超音波内視鏡下での針生検（EUS-FNA）による組織診断
- 超音波内視鏡下胃胆管瘻孔形成術（EUS-HGS）
- 悪性消化管閉塞に対する十二指腸ステント留置術
 - ◆ 2022年度 内視鏡的胆管膵管造影（ERCP）施行件数 404件
 - ◆ 2022年度 超音波内視鏡下での針生検（EUS-FNA）施行件数 142件

■ 臨床研究等の実績

肝臓分野

- 肝細胞癌の発癌機序解明・高リスク群同定
- 非アルコール性脂肪性肝炎の病態解明と治療
- 肝疾患におけるサルコペニアの発症機序解明
- 肝疾患の新規血中バイオマーカーの探索

消化管分野

- 拡大内視鏡を用いた消化管疾患診断法の開発
- 炎症性腸疾患の腸内細菌叢と局所免疫異常
- 小腸疾患の病態解明
- 消化管癌の新規血中バイオマーカーの探索

胆道・膵臓分野

- 超音波内視鏡下針生検材料を用いた膵疾患の予後予測と新規治療法の開発
- 血中・尿中新規膵癌バイオマーカーの探索
- 膵癌早期診断プロジェクトによる予後改善効果に関する前向き観察研究
- ERCP後膵炎予防とリンゲル液負荷の関連性についての多施設共同前向き比較試験
- 切除不能悪性遠位胆管狭窄に対する6mm径と10mm径のFully covered Self-Expandable Metal Stentsの多施設共同前向き比較試験

臓器関連

- 肝臓-腸-胆嚢-膵臓の臓器間相関を示す消化器疾患における、臓器間連繫を担う新規病態情報伝達体の解明とその機能解析

治験

- 肝疾患に対する治験 5試験
- 炎症性腸疾患に対する治験 18試験